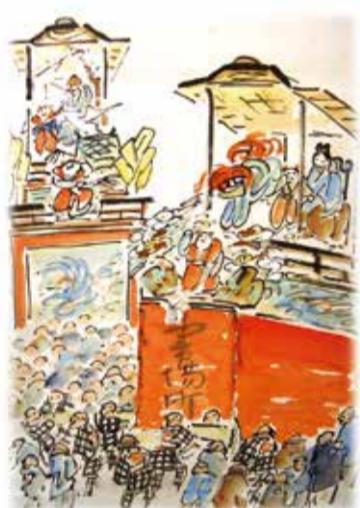


徳川家康が開府して以来、
400年以上の歴史をもつ名古屋。
この城下町の一角に、
名古屋市東区筒井町・出来町があります。
筒井町は武士の侍屋敷と商人の町、
出来町は職人の町として、栄えました。
隣り合うこの二つの地区では、
町内の無病息災を願う天王祭が江戸期から行われ、
今も、からくり人形をのせた山車が町内を練り歩きます。



交通アクセス
●筒井町天王祭へは…地下鉄桜通線「車道」下車
●出来町天王祭へは…基幹バス2号系統「徳川園新出来」または「古出来町」下車
●徳川園へは…基幹バス2号系統「徳川園新出来」、なごや観光ルートバス・メグール「徳川園徳川美術館蓬左文庫」下車
●名古屋市役所へは…地下鉄名城線「市役所」下車
●建中寺へは…地下鉄桜通線「車道」下車
問い合わせ先: 東区役所企画部地域力推進室
TEL 052-934-1123



祭り狂いの伊勢門水の祭り談
「一全体全この山車と云う物はすべて活動するものに出来てつて、それが四拍子の音楽に乗せたり、十大の青綱にじまつた大勢の曳子が構方の木遣節に愈氣を合せ、エンヤーエンヤーと曳出す勢ひに日方の千貫目あらう金飾燐爛とした大きな山がずり、ギリギリと揺き出す、この光景が最も愉快な面白いものでとてもさむ形容詞の及ばぬ妙味が備つてゐる、それをただ据付たままでは活人形や雛欄を見ると同様、何んの趣味も価値もあるはずはない、動かぬ山なら出さぬがまじや」
(「名古屋祭」伊勢門水著・初版明治43年発行より)

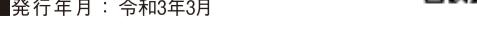
■協 力：筒井町神皇車保存会／湯取車保存会
西之切奉賛会／中之切奉賛会／古出来町奉賛会
徳川園事務所

■写真協力：名古屋市立芸高等学校 グラフィックアーツ科
野畠政行他

■参考資料：「東区の山車」(名古屋市東区役所)
「名古屋市山車調査報告書」(名古屋市教育委員会)
「名古屋祭」伊勢門水
「郷土の山車写真集」山田鈴七
「尾張の山車まつり」https://dashi-matsuri.com/

■発 行：NPO法人「東区山車まつり振興会」
https://higashikuji-dashi.or.jp/
名古屋市東区役所

■発行年月：令和3年3月



【底民の祭り「天王祭」】
天王祭とは、人々が疫病から逃れる為に、津島神社の祭神牛頭天王をお祀りする神事。名古屋では三文丸天王祭とは別に町々で江戸中期から祠や屋根神様に津島神社の御札を祀るようになり、齐朝の時代、山車祭りに変化していく。筒井町、古出来町では、津島神社（代參）。山車の四本柱に御札が祀られる（出来町の西側と中之切では、代參および四本柱に祀ることは行われていない）。天王祭の間、お祭り町内を曳行する山車は御祝儀をいただく人々で、無病息災を祈り、人形からくり、人形囃子、力持らなどを披露する。

戦後、復興した古出来町の山車1号、馬車の台座に柱を取り付け、元禄雨帽子を屋根にした。

名古屋地方でお祭りごとの時は、各神社で神事が行われることに加えて、東照宮祭、若宮祭などに曳き渡す山車そのものを祭りながら、お祭り「おまつり」を「お祭りが飾つてある」といってきました。

名古屋地方でお祭りごとの時は、各神社で神事が行われることに加えて、東照宮祭、若宮祭などに曳き渡す山車そのものを祭りながら、お祭り「お祭りが飾つてある」といってきました。



維持管理 筒井町神皇車保存会

1818(文政元)年頃、旧広井村新屋敷(現中村区名駅4)で三之丸天王社の見舞車として造られたものを、1887(明治20)年、当時の筒井町が譲り受けた。屋根・高欄部分が朱色に塗られているのは、名古屋では珍しい。舞を踊った巫女が鬼の面をかぶり、龍神に早変わりするからくりは、神功皇后三韓征伐の折、龍神が現れ波をしずめた故事による。

戦災、天災からの復興

「戦後しばらくして、戦前の祭りを覚えていた町内の人たちから話を出て、まず笛の稽古を始めました。毎晩遅くまで吹き、ようやく音が出て、一曲が吹けるようになりました。昭和23年6月からまた毎年吹くようになりました。」

神皇車(jinjousha): 戦後新しい浴衣を新調した、天王祭宵祭(昭和26年5月31日撮影)

維持管理 湯取車保存会

1658(万治元)年、東照宮祭礼車として旧桑名町(現中区丸の内2)で造られ、1831(天保2)年、当時の筒井町が譲り受けた。屋根・高欄部分が朱色に塗られているのは、名古屋では珍しい。舞を踊った巫女が鬼の面をかぶり、龍神に早変わりするからくりは、神功皇后三韓征伐の折、龍神が現れ波をしずめた故事による。

戦災、天災からの復興

「昭和22年から山車の曳行が再開されたものの、伊勢満台風で中断。昭和50年に筒井町天王祭での曳行が16年ぶりに復活しました。提灯の付け方一つから強化され、復活にはかなりの苦労がありました。」

湯取車(yudoriguma): 戦後初めての筒井町天王祭(昭和26年5月31日撮影)

維持管理 西之切奉賛会

若宮八幡社祭礼車として作られた山車を、1810(文化7)年に西之切が旧住吉町(現中区丸の内3)から譲り受けたとされている。唐子人形(小唐子)が逆立ちして小太鼓を打ち鳴らし、もう一体の唐子人形(中唐子)が团扇大太鼓を乱打しながら左右に飛び回るを見て、軍配を高々と上げる大将の姿が勇壮なからくり。

戦災、天災からの復興

「空襲で「西之切永代帳」は焼失したものの、山車蔵は奇跡的に焼け残りました。戦後まもない昭和21年から天王祭を再開。出来町で唯一焼け残った山車が荒廃した町を曳行され、町内復興の源となりました。」

西之切: 戦前のメインストリート「二軒家筋(出来町通りの一本南)」を行く鹿子神車(kashakijinsha)

維持管理 中之切奉賛会

尾張10代藩主齊朝公より拝領したといわれる「石橋車」を、惜しまれ20年空襲で失った。現在の山車は、昭和23年に旧住吉町(現中区丸の内3)から若宮祭の祭礼車「河水車」を譲り受けたもの。昭和25年、この町に二百多年来伝わってきた能楽「石橋」由来する、勇壮で激しい獅子舞のからくりができるように、人形を替えている。

戦災、天災からの復興

「山車はおろか、幕、人形、衣装、過去帳などを全て戦災で焼失しました。昭和23年2月に河水車を住吉町から譲り受け、とにかく山車を曳きたいという気持ちから、婦人の丸帯をつないで幕を作り、戦後初の天王祭の曳き出しに間に合わせました。」

中之切: 江戸期から中之切で曳かれてきた「石橋車(しゃっきょうしゃ)」(戦災で焼失)

戦災、天災からの復興

「戦災で山車を焼失したため、昭和23年から3年くらい、暫定的な山車を曳いていました。新しい山車の製作は昭和26年から始まり、気の遠くなるような年代、人件費、試行錯誤を経て現在の姿となっています。」

東之切: 戦前の「王羲之車(おうぎししゃ)」。巨大な山車であったと伝えられる。(戦災で焼失)

